

令和5年度（令和4年度分）学校関係者評価報告書

テクノ・ホルティ園芸専門学校 学校関係者評価委員会は、「令和5年度（令和4年度分）自己点検・自己評価報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施したので、下記の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員

- (委員長) 村山 忠 公益社団法人 園芸文化協会 事務局 (元事務局長)
- (委員) 大久保茂徳 公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 会員
テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 鈴木 靖子 公益社団法人 日本家庭園芸普及協会 グリーンアドバイザー
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師
- 星野 学 本校卒業生代表
- 岡部有希子 本校卒業生代表
- (事務局) 伊東 政信 学校法人伊東学園 理事長
テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
- 古谷 民子 同 教務部長
- (コース担当教員)
- 萩原 文雄 同 花き生産コース コース長・農場長
- 齋藤 仁 同 野菜生産コース コース長
- 伊藤 弘充 同 グリーンコーディネートコース コース長・副農場長
- 柿沼 真吾 同 フラワーコーディネートコース コース長
- 細井 薫 同 造園コース 副コース長

2. 実施日時 令和5年9月27日（水） 14:00～16:00

3. 令和5年度（令和4年度分）自己点検・自己評価における学校関係者評価

1) 教育理念・目標

- ・学校としての将来構想はおおまかなものはあるようだが、具体的に定め、全教職員が共通理解のもと、各自が能動的に行動できるよう努めてほしい。
- ・将来構想は教職員との意見を交換しながら作っていけるとよい。意見を吸い上げることによって、そこから構想もふくらんでいくのではないかな。

2) 学校運営

- ・大よその運営方針や事業計画は定められているので、引き続き適宜見直して改訂を行いながら、それにそった運営を行ってほしい。
- ・情報システム化は学校としてどの程度まで行うかを決めてから取りかかる方がよいのではないかな。

3) 教育活動

- ・ビジネスという観点から、経営に関する内容も授業に取り入れることも必要ではないか。
- ・講師とのコミュニケーション、講師への情報提供については密に行ってほしい。
- ・講師には担当科目以外のカリキュラムの情報提供も行ってほしい。

4) 教育成果

- ・毎年就職率、資格取得率は高い水準を保っているため、引き続き指導に注力してほしい。
- ・学校は卒業生と在校生をつなぐ役割を担えるとよいのではないか。
- ・卒業生とのつながりはフェイスブックなど既存の SNS を利用してもよいのではないか。

5) 学生支援

- ・聴講生募集を始めたようだが、ターゲットを絞って行えば、より効果的ではないか。
- ・オンラインでのカウンセリングのシステムを取り入れたところ、利用者がいなかったとのことだが、何らかの形で在校生の相談窓口のようなものはあるとよいのではないか。

6) 教育環境

- ・授業内容は視覚的に見せることは難しいので、目に見える設備を整備することは重要である。
- ・農業高校の在籍者、出身者が見た際の目玉となるような設備があるとよい。
- ・清潔感も大事である。

7) 学生の募集と受け入れ

- ・毎年の課題ではあるが、募集活動そのものは問題なく行われているとはいえ、入学定員 80 名を満たすことが本来の適正な募集活動といえるので、引き続き募集活動には注力してほしい。
- ・評価方法も見直した方がよいのではないか。
- ・評価が「5」の項目でも慢心せずに学生増につながるような募集活動を意識してほしい。

8) 財務

- ・学生募集とも大きな関わりがあるので、学生募集を確実なものにしながら、それ以外にも収入増につながる活動も検討してほしい。

9) 法令等の遵守

- ・広報活動や学生とのやり取り等 SNS を効果的に利用しているようだが、その運用には十分に注意が必要である。
- ・個人情報などを扱っている学校においては、一切の問題がないように常に点検し対応していくべきである。

10) 社会貢献

- ・コロナ禍以前のように講座等が実施できるとよい。
- ・職業訓練は現在受け入れを行っていないが、収入増につながるだけでなく社会貢献の一つでもあるため、再開できるとよい。

3. 総評

上記 10 項目について、テクノ・ホルティ園芸専門学校の教育活動、学校運営は概ね問題なく行われていると評価します。ただし、毎年の課題ではありますが、学生募集に関しては学生数の増減は財務だけでなく教育活動や学生支援、教育環境など、多岐にわたり影響を与えることから、引き続き教職員一丸となって学生数の増加に努めることを望みます。

以 上